

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	株式会社大同キャスティングス
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	愛知県名古屋市港区竜宮町10番地
工場等の名称	株式会社大同キャスティングス 名古屋事業所
工場等の所在地	愛知県名古屋市港区竜宮町10番地
業種	製造業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	鉄鋼業(铸鋼品製造)
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月26日 ~ 令和6年10月24日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 株式会社大同キャスティングス モノづくり改革部 環境室
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	環境室担当者 TEL: 052-691-5141 Email: CHIHARA@d-cast.jp		

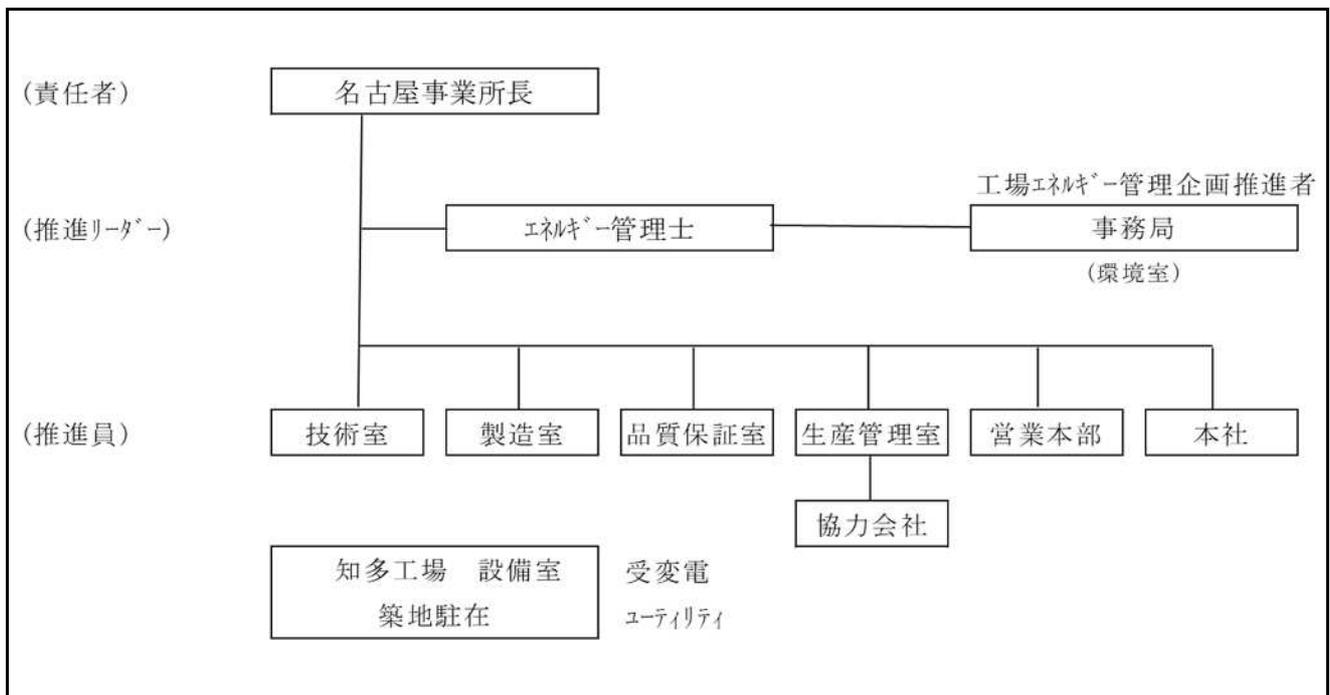
3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社は、地球温暖化対策を始めとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

1. 継続的な環境改善
P D C Aサイクルに基づく環境対策をISO14001に沿って継続的に改善を図ります。
2. 省資源・省エネルギー活動の推進
温室効果ガスの排出原単位改善を図ります。（基準年対比）
3. 廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進
廃棄物の発生量を抑制します。
4. 従業員への環境教育と社外への環境コミュニケーションの継続
従業員に対しては、環境教育を継続し、社外に対しては従業員による工場周辺・路地の清掃等の地域貢献活動や環境情報の公開を継続します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,616	t-CO ₂
（温室効果ガス除く炭素換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		7,616

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	t-CO ₂	令和 6 年度	t-CO ₂	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	t-CO ₂	t-CO ₂
温室効果ガス総排出量									
削減率（対基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%	%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度	t-CO ₂ / ton	令和 6 年度	t-CO ₂ / ton	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	t-CO ₂ / ton	t-CO ₂ / ton
原単位あたりの排出量	0.9772		0.9479		1.161		1.134		
削減率（対基準年度）			3.0	%	▲ 18.8	%	▲ 16.0	%	%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / ton		t-CO ₂ / ton	t-CO ₂ / ton
削減率（対基準年度）						%		%	%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

原単位改善の活動は進めています。製品出荷量 25.5%減量の影響が大きく、原単位は 16.0%悪化しました。主な要因は

- ア. 稼働率が低下で、放散する溶解炉耐火物の保有熱を補う電力と都市ガスが増加し、原単位が 7.0%悪化
- イ. 生産量が大幅に減少に合わせた運用を推進するも、製品納期に合わせた稼働が必要な場合もあり、減産に見合う保熱エネルギー削減が未達し、原単位が 9.6%悪化
- ウ. 製品構成比の影響はR4より少なくなり、R3対比原単位が 2.4%悪化

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
都市ガス原単位の低減 金型予熱炉 熱処理炉	<ul style="list-style-type: none"> 炉壁の断熱強化による放散熱の削減 定期メンテナンス、補修による能力の維持管理 	削減目標：20千m ³ /年 実現時期：令和4年4月から順次	熱処理炉のバー更新完了及び定期メンテナンス、補修をR5.12月に実施 原単位フォロー・評価中
AOD予熱・保熱用都市ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> AOD稼働（ベッセル交換）の計画的な運用推進による予熱・保熱エネルギーの削減 保熱時の投入エネルギー適正化 定期メンテナンスによる能力の維持管理 	削減目標：5千Nm ³ /年 実現時期：令和4年4月から	生産量が大幅に減少に合わせた運用を推進するも、製品納期に合わせた稼働が必要な場合もあり、原産に見合う保熱エネルギー削減が未達し、原単位が悪化
不良率・直行率の改善継続	<ul style="list-style-type: none"> 不良屑化対象品および慢性不適合の原因調査を詳細に行い、製造条件の見直しを図り、再発及び類似不良の抑制を図る活動を継続。 	削減目標：3500GJ/年（電力 320千kWh/年、都市ガス 15千m ³ /年） 実現時期：令和4年4月から	不良屑化対象品の調査を詳細に実施し、製造条件の見直しを図り、再発及び類似不良の抑制を図る活動を継続中
工場エアリーク撲滅	<ul style="list-style-type: none"> 2回/月 パトロール 	削減目標：10千kWh/年 実現時期：令和4年4月から	環境専任者による日常パトロールにより、適切な設備管理が継続できている
溶解電力の削減	<ul style="list-style-type: none"> 操業-出鋼温度の適正化（低温化） 操業休転時間の短縮による放散熱の削減 	削減目標：200千kWh/年 実現時期：令和4年4月から	出鋼温度の低温化による作業性の悪化のため、中断作業性の改善を検討中

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>ア. 省エネパトロールを含む環境パトロールの実施 イ. 定時退社日を設定し、残業による空調機や照明の電力削減に継続して努める (1回/月) ウ. 事務所及び現場詰所の昼休み天井照明消灯活動継続 エ. 冷却水ポンプ、集塵用排風機や照明等、切り忘れの見える化を推進</p>
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>ア. 従業員への環境認識教育や啓蒙活動を継続実施…世界の脱CO₂に向けた動向について イ. 生産現場で環境事故を想定した対応マニュアルの有効性確認及び実地訓練を実施 ウ. 工場周辺の清掃を継続実施 (2回/年)</p>
